

## 自動式低圧樹脂注入工法 Q & A

Q 注入治具の選定はどうしたら良いですか？



A D52S, DGは

シリコンゴムできており、注入圧力は0.08~0.10N/mm<sup>2</sup>で、比較的ひび割れの小さい0.5mm以下の所に適しています。高粘度タイプの粘度の高い樹脂を注入するときは、必ずこのグレードを使って下さい。溶剤には強いが、引き裂き強度が弱いので、取扱いを丁寧にして下さい。

B2は

天然ゴムできており、注入圧力は最高0.04N/mm<sup>2</sup>で、枠が金属でできているため、出隅、入隅などの役物として折り曲げて使用して下さい。

Q 樹脂の選定はどうしたら良いですか？



A 超低粘度タイプは

0.2mm以下のひび割れ、特に冬期の施工、また、モルタルの浮き補修のプライマーとして用いて下さい。

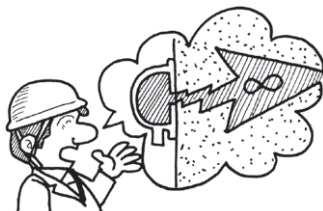
低粘度タイプは

1.0mm以下のひび割れに適します。また、大きなひび割れにも最初に少量(10~20cc)注入すると、注入性と接着性が良くなります。

高粘度タイプは

1mm以上のひび割れや、ジャンカ等があるところに注入する場合に用います。モルタル浮き補修のピンニングを行うところの注入にも用います。

Q 片側から注入すると無限に入ってしまうのですか？



A 裏面のシールが可能であれば裏面をシールするのが原則ですが、だれない性質を持たせたスクイズ液高粘度タイプが用意されています。どんどん入る箇所や裏面がシールできない箇所は、高粘度タイプを追加注入して下さい。

Q 低粘度タイプから高粘度タイプに替えられますか？



A 粘度の変わったものをつぎつぎと追加注入してもかまいません。特に、スクイズ工法は追加注入が簡単にできるのが特徴です。

Q 漏水があるところの注入は可能ですか？



A コンクリートが湿っている程度であれば、注入は可能です。湿っていてもコンクリートへの接着強さは充分あります。

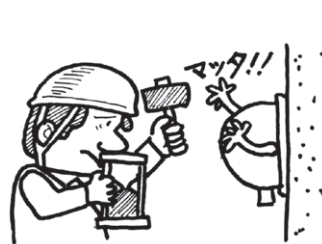
漏水があるところにはスクイズ工法は適しません。Uカットして急結セメントで止水してから削りし、低粘度タイプを注入する方法が良いと思います。この時、漏水していないひび割れは、全てスクイズ工法で注入した後、Uカットして止水しないと漏水箇所が移動して、他のひび割れから漏水することがあるので注意して下さい。

Q 注入の終了はどうして判断すれば良いですか？



A 基本的には、スクイズプレートの中に注入材が残ったまま硬化しているのが原則です。幾らでも入る場合は、コンクリートの厚み(注入深さ)、ひび割れ幅から計算して得られる注入量の2倍入ったら高粘度タイプを注入して下さい。基本的には、2時間以内に注入が完了するようにして下さい。

Q 現場で硬化時間は変えられますか？



A 一般用(春、夏、秋季)と冬用(冬季)の2種類を用意しているので、それぞれを季節で使い分けて下さい。現場で、促進剤や配合比を変えて硬化時間を変えることはできません。

Q シールから漏れが生じたらどうすれば良いですか？



A 直ちに注入を中止し、スクイズプレートに入っている液を抜き、漏れ部分を良く拭き取り(シンナー等を用いると良い)再度シールして下さい。時間がなく再度注入したいときは、急結セメントで押さえてシールして下さい。

Q スクイズプレートの充填口の逆止弁が壊れ、充填口から注入材が漏れだしたらどうしたら良いですか？



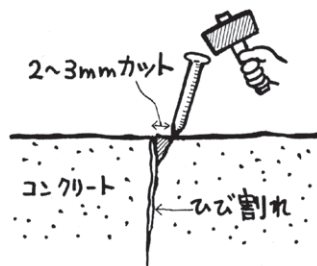
A まず専用ノズルをまっすぐに充填口に差し込んで下さい。万一壊れたときは、釘か楊枝を充填口に差し込んで止めて下さい。

Q スクイズプレートへの注入はどんなポンプがありますか？



A 少量施工の場合はグリスポンプが適しています。多量施工の場合は足踏式ポンプやケミカルポンプがあります。

Q ひび割れにゴミが目詰まりしているときはどうしたら良いですか？



A プレートを貼り付ける箇所のひび割れを、小さいたがねを用いて図のように、2~3mmカットし目起こしをして下さい。